

# 速野の窓

発行：速野学区まちづくり協議会  
速野学区社会福祉協議会  
編集：速野公民館（水保町2236）  
Tel 585-3953 Fax 585-5253  
hayanoikaikan@city.moriyama.lg.jp  
【学区の現況】（11月30日現在）  
世帯数 5,078世帯（前月比±0）  
人口 12,208人（前月比-13）

## 新年のご挨拶

速野学区長 今井 孝次

新年あけましておめでとうございます。

学区の皆様におかれましては、ご家族お揃いで令和7年の新春を迎えられましたこととお慶び申し上げます。

旧年中は、速野学区まちづくり協議会ならびに速野学区社会福祉協議会の活動に対し、深いご理解と暖かいご支援、ご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと1月1日のお正月早々に能登半島地震が発生し、多くの方々が被災され、尊い人命も失われました。被災されました方々には心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をご祈念申し上げます。このことを受け、いち早く速野学区自治会長会として、義援金を募りましたところ学区の皆様の暖かいご支援とご協力により、多くの義援金が集まり、日本赤十字社を通して、被災地に届けることが出来ました。皆様の暖かいご支援、ご協力に感謝申し上げます。

さて、10月に開催いたしました速野学区民のつどいでは、会場をびわこ地球市民の森に移し、芝生広場では、明富中学校吹奏楽の演奏、各園児によるダンス等のステージ発表やニースポーツ、サイクリング、クラフト等の体験コーナーを設け、また、森づくりセンターの室内では、各種の自主教室や各種団体の作品展示などを設け、天候にも恵まれ多くの人で賑わい、皆様の楽しそうな顔が多くみられました。

また、11月には、速野小学校創立150周年記念式典が関係者の出席のもと盛大に開催され、併せて歴史の深さを感じられた節目の1年となりました。このように、アフターコロナに転換したこともあり、様々な学区の事業が実施することができ、学区の皆様には深くお礼申し上げます。今後、1周年を迎えた北部図書館ならびにリニューアルした速野会館に、多世代の市民の方が訪れ、親しみ、交流できる場としてご利用していただくとともに、「速野学区に住んでよかった」と感じられる地域づくりに皆様と一緒に取り組んで参りたいと考えておりますので、皆様方の変わらぬご支援をお願い申し上げます。



## 速野学区自治会長会 県外研修を実施しました

速野学区自治会長会では、11月28日（木）から29日（金）まで石川県での県外研修を実施しました。

1日目は、石川県小松市にある「木場潟公園 東園地」を訪問しました。次世代エネルギーパークとして「里山」の再生と、再生可能エネルギーの活用を通じた「学び」「遊び」「体験」をテーマとした体験型パークを目指して開園されました。施設には再生可能エネルギーを活用した様々な設備が整えられており、例えば、園内の里山で発生した間伐材等をペレット燃料に加工してペレットストーブで暖房を行っていたり、太陽光発電設備は、太陽の方向に可動する架台や両面発電パネルを導入することで効率よく発電し、発電で得られた電気は、農業体験ハウスで活用されています。地球温暖化が世界的な課題となっているいま、再生可能エネルギーの新たな活用の可能性を知る機会となり、また、SDGsについても理解が深まった研修となりました。



2日目は石川県七尾市にて、能登島観光協会の方より、七尾市能登島地区における被災体験についての話を聴きました。能登島は人口約2,500人、900世帯と、速野学区と比較すると小さな規模の島です。教訓として、「日頃からの近隣住民とのコミュニケーションが最も重要」とお話いただきました。何よりも人のいのちが一番大切であり、まずは近隣の方々（班）で安否確認を行える体制を整えておくことが重要だ、と仰っていました。研修先の道中では全壊の家屋が残っており、また、石碑や鳥居が崩壊しているのを目の当たりにして、改めて自然災害の脅威を痛感しました。実際に被災地を訪れ、被災者のリアルな声を聴くことができて、今回の視察研修は防災意識が高まったとともに、地域防災力向上のための参考に資するものとなりました。

